

5月 22-28日

歴代第二 25-27章

80番の歌と祈り

開会の言葉（1分）

神の言葉の宝

「エホバはそれ以上のものをあなたに与えることができます」（10分）吉田 忍B

宝石を探し出す（10分）阿部 直生B

代二 26:4, 5 ウジヤは父アマジヤと同じように、エホバから見て正しいことを行なった。5 ゼカリヤの時代には、真の神を畏れるようゼカリヤに教えられ、ずっと神に仕えた。彼がエホバに仕えた間、真の神は彼を成功させた。良いアドバイスを与えてくれる兄弟姉妹を持つことの大切さについて、ウジヤの例から何が学べるか。（塔 07 12/15 10 ページ 1-2 節）ウジヤは、16歳の若さで南のユダ王国の王となり、50年以上統治しました。西暦前の9世紀後半から8世紀前半にかけてです。若い時から『エホバの目に正しいことを行ない続けました』。廉直な歩みをする点でウジヤはどんな感化を受けましたか。歴史の記録はこう述べています。「[ウジヤ]は、まことの神への恐れを教え諭す者であったゼカリヤの時代には絶えず神を求めるのであった。彼がエホバを求めた間、まことの神は彼を榮えさせられた」。—歴代第二 26:1, 4, 5。

王の助言者ゼカリヤについては、聖書に記されているこの情報以外はほとんど知られていません。とはいえ、「まことの神への恐れを教え諭す者」ゼカリヤは若い王に良い感化を与え、王は正しいことを行ないました。「解説者の聖書」（英語）によれば、ゼカリヤは明らかに、「聖なる教えに通じており、靈的な経験が豊富で、自分の知識を人に分かち与えることのできる人」でした。ある学者は、ゼカリヤについてこう結論づけています。「彼は預言によく通じており、……聰明で、信心深い、善良な人だった。ウジヤに大きな感化を与えていたと思われる」。

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。アマジヤ王がエホバから見て正しいことを行なったのに祝福を失った理由が（25:2）で心を尽くして（参考では、全き心を抱いて）いなかつたためだと説明されている。先日の講演でも人の内面全体を表す心でエホバを喜ばせる生き方をする知恵について学べたが、集会や奉仕に熱心に参加しても心にその知恵が不足して形だけの崇拜になっていないか自己吟味し、心を込めてエホバを愛し、お仕えする生き方を追及し続けていく必要性を強く感じた。

聖書朗読（4分）代二 25:1-13（教励 第12課）星 拓哉様

野外奉仕に励む

最初の話し合い（3分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。聖書レッスンについて話し、聖書レッスン紹介用コンタクトカードを渡す。（教励 第2課）米山 英行 B2 長谷川 貴史 B

再訪問（4分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。公式ウェブサイトを紹介し、jw.org コンタクトカードを渡す。（教励 第15課）小島 千晴 S15 米山 京子 S

聖書研究（5分）暮 レッスン 10 序文とポイント 1-3（教励 第3課）宮崎 倫子 S3 柴田 まり子 S

クリスチヤンとして生活する

136 番の歌

「永遠の命のために進んで犠牲を払いますか」（マルコ 10:29, 30）イエスは言った。「はっきり言いますが、私のため、また良い知らせのために、家、兄弟、姉妹、母親、父親、子供、あるいは畑に別れを告げた人は皆、30 今この時期に*百倍を、家、兄弟、姉妹、母親、子供、畑を迫害と共に得て、新しい体制で永遠の命を得ます）

（15分）討議。動画を再生し、次の質問をする。滝 秀貞 B

①マルコ 10 章 29, 30 節のイエスの約束について考えると、どんなことをするよう動かされるか
どんな犠牲を払うことになるとしても、引き続き神の望むことを行いたいという気持ちになる。
信仰と愛に動かされてエホバに仕えたいと思う。

②イエスは、異父兄弟たちが自分に信仰を持たなかった間もどう行動したか。

イエスは忠実を保った。人からどう思われるかを気にし過ぎることはなかった。エホバを喜ばせることをいつも第一にしていた。イエスが忠実を保った結果、イエスの異父兄弟たちもやがて信仰を持つようになった。

③エホバの証人でない家族がいる場合、どんなことを心に留めておくとよいか。

イエスに倣い諦めない。でも家族を喜ばせようとして奉仕の手を緩めるようなことがないようにする。貴方の生き方を見て、家族の心が動くかもしれない。

羊のような人が一人見つかった家族には、大抵そのような人が他にもいる。貴方の家族の中にもきっといるはず。ですから諦めずに辛抱強く助けて。

家族が全く聞いてくれない場合でもエホバは貴方がベストを尽くしたことをご存じで、そういう努力を決して忘れない。払った犠牲以上の祝福を与えてくださる。

（貴方はどんなものを進んで犠牲にしますか？イエスはご自分の弟子になることを選ぶ人が、家族との絆を含め大切なものを犠牲にしなければならないことが有ると言った。真理を愛する人はエホバの側にしつかり立つことを選ぶ。私たちはエホバのためならどんなものをも犠牲にするつもり。エホバとイエスのために進んで犠牲を払いイエスの手本に従い続けるなら、エホバとイエスは私たちが犠牲にしたものよりも、遙かに多くのものを与えてくれる。置かれている状況により、後にしたり、犠牲にしなければならないものは異なる。どんなものをも手離さなければならないとしても、エホバとイエスはマルコ 10 章にある約束を果たしてください。忠実な人に百倍を、永遠の命を与えてください。この約束について考えると、どんな犠牲を払うことになるとしても、引き続き神の望むことを行いたい、という気持ちになる。信仰と愛に動かされてエホバに仕えたいと思う。エホバは親切に惜しみなく与えてくださる。）

エホバご自身も私たちのために大きな犠牲を払ってくださった。信仰を抱く私たちはデマスのようにはなりたくない。デマスは難しい状況になるとパウロを見捨てた。自分が後にしたものを持ちしむようになり、エホバに仕えるために何を与え何を犠牲にするかをエホバが良く見ているということを忘れた。何を与え何を犠牲にするかはその人の動機を明らかにし、人によってことなるが、エホバは驚くほど豊かに報い、多くのものを与えてくれる。イエスも私たちが百倍を得ると言っていることを忘れないようにし、このイエスの約束を信頼し続ける。イエスご自身この点を心に留めていた。例えばイエスは異父兄弟たちが最初のうち自分に信仰を持たなかつたのでがっかりしたが、例え相手が家族でも誰かを喜ばせようとしてエホバへの奉仕の手を緩めたりしなかつた。ある時イエスは「全ての人たちがあなた方のことを良く言う時、貴方達には災いがあります。」と言つた。全ての人を喜ばせようとするならやがてエホバに不忠実になつてしまふことをイエスは知つていた。イエスは忠実を保つた。人からどう思われるかを気にし過ぎることはなかつた。エホバを喜ばせることをいつも第一にしていた。イエスが忠実を保つた結果、イエスの異父兄弟たちもやがて信仰を持つようになつた。特にイエスが死んだ時に起きたことがらや復活を見て心を動かされたよう。心が整うと直ぐにイエスの教えを受け入れイエスに従うようになった。私たちの状況に当てはめて考えてみる。

親や家族はエホバの証人ではないかもしれない。長年エホバに一人だけで仕えてきた方もいる。では終わりが来る前に家族を助けることはできないのか？そのようなことはない。何ができる？イエスの手本に倣うこと。イエスに倣い諦めない。でも家族を喜ばせようとして奉仕の手を緩めるようなことがないようにする。貴方の生き方を見て、家族の心が動くかもしれない。マタ5:16（貴方たちの光を人々の前に輝かせなさい。そうすれば人々は貴方たちの立派な行動を見て、天に居る父を讃えるでしょう。）信者でない家族を含めて人々の目に私たちはどのように映つてゐるか？強い信仰を持ち将来をしっかりと見据えている人ととして映つてゐるか？毎日もっと信仰を与えてくださいと祈り、聖書をじっくりと学ぶなら、信仰を強めることができる。真理に心が向き始めている人は、その様子に目を留める。信仰に行動が伴つてゐることに気付く。そして真理にますます心を向けるようになるかもしれない。私たちの行動は大切。ことわざにある通り、行動は言葉よりも雄弁。イエスが述べたように、人々は貴方たちの立派な行動を見て天に居る父を讃える。

とはいへ、自分の家族はどうなんだろう？見込みがあるのか？と思うかもしれない。不安に思うのは家族を愛しているから。真理を受け入れないまま手遅れになつてしまふのではないかと心配になる。そういう不安が沸きあがつてくるなら、次のことを思い出す。エホバは真理に関心を向けている人の心を直ぐに変化させることができる。イエスの異父兄弟たちの心を動かしたように。エホバは全ての人の心の状態を知つてゐる。イエスも羊のような人の心を見分けることができる。それで、前向きな見方を持ち、家族の心が真理に向くよう助け続けて。そしてエホバの導きを求める。エホバは正しい心を持つ人を必ず引き寄せてくださる。

羊のような人が一人見つかった家族には、大抵そのような人が他にもいる。貴方の家族の中にもきっといるはず。ですから諦めずに辛抱強く助けて。でも家族が全く聞いてくれない場合は？有りえること。そのような場合でもエホバは貴方がベストを尽くしたことをご存じ。そういう努力を決して忘れない。では貴方はどんなものを進んで犠牲にするか？イエスの手本に従うなら、真理の側にしっかりと立つことができる。家族との関係など非常に大切なものを犠牲にしなければならないとしても、エホバから離れる事はない。私たちが神に忠実であり続けるなら、それを見る人が真理に心を向け、エホバに引き寄せられて、クリスチャンとして歩むようになるかも。イエスはご自分に従う人が大きな犠牲を払うとしても百倍を得ると言つた。それには国際的な兄弟関係が含まれる。地球上に存在する最高の兄弟関係。それだけでなくイエスに従うために進んで犠牲を払う人たちは、新しい体制で永遠の命を得る。）

会衆の聖書研究（30分）暮 レッサン 46 大谷 正B 朗読：伊藤 勇一B

閉会の言葉（3分）

51番の歌と祈り 田中 慶一B

神の言葉の宝

「エホバはそれ以上のものをあなたに与えることができます」

アマジヤは敵と戦うために戦士を雇った。 (代二 25:5, 6) アマジヤはユダを集め、氏族ごとに、千人長や百人長たちのもとに立たせた。ユダとベニヤミン全体についてそうした。20歳以上の人たちを登録すると、小やりや大盾を扱えて兵役に就ける訓練された戦士が30万人いた。6 アマジヤはまた、イスラエルから10万人の強い戦士を3.4トンの銀で雇った)

真の神に仕える人は、雇った戦士を家に帰らせるようにとアマジヤに助言した。 (代二 25:7, 8)しかし、真の神に仕える人がやって来て、こう言った。「王よ、イスラエルの軍隊を連れていってはいけません。エホバはイスラエルとは共におられません。エフライム族の誰とも共におられません。8 **自分で行って、勇敢に戦いなさい。さもないと、真の神はあなたを敵の前で敗北させるでしょう。** 神には、助ける力も敗北させる力もあるのです」。洞-1 388 ページ 5 節 エホアシュは、エドム人と戦おうとするユダの王に自分の部隊から10万人を傭兵として派遣することもしました。しかし、「まことの神の人」の忠告により、彼らは解雇されました。そのため彼らは、**前払い**で銀100タラント(66万600ドル)を受け取っていたにもかかわらず、**家に送り返されたことで怒りました。** それは、期待していた戦利品の分け前にあずかれなくなつたからかもしれません。そのため彼らは**北へ戻った後、南王国の町々を、サマリア**(彼らの作戦基地だったのかもしれない)からベト・ホロンに至るまで**強奪**しました。—代二 25:6-10, 13)

エホバは、アマジヤが犠牲にしたもの埋め合わせる以上のことをした。 (代二 25:9, 10) アマジヤは真の神に仕える人に言った。「ですが、私がイスラエルの部隊に渡した3.4トンの銀はどうしましょうか」。真の神に仕える人は答えた。「エホバはそれ以上のものをあなたに与えることができます」。10 それでアマジヤは、エフライムから来ていた部隊を解散させ、帰らせた。彼らはユダに対して非常な怒りを抱き、怒りに燃えながら自分たちの所に戻った)



考えてみよう：「エホバにもっと仕えるためにどんな犠牲を払えるだろうか。そうするならどんな祝福を味わえるだろうか」。（マラ 3:10）¹⁰ 分の 1 全部を倉庫を持ってきて、私の家に食物があるようにしないさい。私があなたたちのために天の水門を開いて、あふれるほどに祝福を注ぐかどうか、私を試してほしい」と、大軍を率いるエホバは言う。塔研 21.08 30 ページ 16 節 エホバのために犠牲を払う。これは、エホバに喜んでいただくためには自分の好きなことを何もかも諦めなければならない、という意味ではありません。（伝 5:19, 20）しかし、犠牲を払いたくないという理由で神への奉仕においてもっと多くのことを行おうとしないなら、イエスの例え話に出てくる男性のようになってしまいます。その男性は、快適な生活を送ることばかり考え、神に思いを向けませんでした。（ルカ 12:16-21 を読む。）フランスに住むクリスティアン兄弟はこう言います。「私は、エホバや家族のために自分の時間やエネルギーを十分用いていませんでした」。兄弟と妻は、開拓奉仕を始めることにしましたが、その目標を達成するには 2 人とも仕事を辞める必要がありました。2 人は、生計を立てるために自分たちでちょっとした清掃の仕事を始め、以前よりも少ない収入で満足するようになりました。犠牲を払ってよかったですと感じているでしょうか。クリスティアン兄弟はこう言っています。「宣教をもっと楽しめるようになりました。聖書レッスンや再訪問で、人々がエホバについて学んでいる姿を見られるのは、本当にうれしいことです」）

^ (代二 25:5, 6) アマジヤはユダを集め、氏族ごとに、千人長や百人長たちのもとに立たせた。ユダとベニヤミン全体についてそうした。20 歳以上の人たちを登録すると、小やりや大盾を扱えて兵役に就ける訓練された戦士が 30 万人いた。⁶ アマジヤはまた、イスラエルから 10 万人の強い戦士を 3.4 トンの銀で雇った。

^ (代二 25:7, 8) しかし、真の神に仕える人がやって来て、こう言った。「王よ、イスラエルの軍隊を連れてはいけません。エホバはイスラエルとは共におられません。エフライム族の誰とも共におられません。⁸ 自分だけで行って、勇敢に戦いなさい。さもないと、真の神はあなたを敵の前で敗北させるでしょう。神には、助ける力も敗北させる力もあるのです」。

^ (代二 25:9, 10) アマジヤは真の神に仕える人に言った。「ですが、私がイスラエルの部隊に渡した 3.4 トンの銀はどうしましょうか」。真の神に仕える人は答えた。「エホバはそれ以上のものをあなたに与えることができます」。¹⁰ それでアマジヤは、エフライムから來ていた部隊を解散させ、帰らせた。彼らはユダに対して非常な怒りを抱き、怒りに燃えながら自分たちの所に戻った。